

修士論文要旨

2011年1月

一方的な意見を採用上げた事件報道が是認思考と行動表出様式に及ぼす影響

指導 井上直子 教授

心理学研究科

臨床心理学専攻

209J4006

植田 裕吾

## 目次

I. 問題の背景と所在	3
1. 暴力映像がもたらす影響	3
2. 一方的な意見を採り上げた事件報道と目標感染	5
3. 攻撃性と関係するパーソナリティ	6
4. 問題の所在	8
II. 目的	10
III. 本研究の構成	11
IV. 研究1	12
1. 目的	12
2. 方法と手順	12
1) 実験に用いる刺激映像の選定	12
(1-1) 目的	12
(1-2) 方法	12
(1-3) 結果・考察	13
2) 研究2で使用する質問紙の作成と信頼性・妥当性の検討	13
(2-1) 目的	13
(2-2) 方法	13
(2-3) 結果・考察	14
3) 大学生における自己愛傾向と是認思考, 行動表出様式の特徴	16
(3-1) 目的	16
(3-2) 方法	16
(3-3) 結果	16
(3-4) 考察	20
3. 結論	21
V. 研究2	23
1. 目的	23
2. 方法	23
3. 結果	23
4. 考察	30
1) 一方的な意見を採り上げた事件報道視聴と行動表出様式の関連について(仮説1)	30

2) 一方的な意見を採り上げた事件報道視聴と是認思考の関連について (仮説 2)	32
3) 自己愛傾向と行動表出様式の関連について (仮説 3)	33
4) 自己愛傾向と是認思考の関連について (仮説 4)	34
VI. 総合考察 .....	36
1) 映像の要因	36
(1-1) 映像に用いられていたコメントについて .....	36
(1-2) 映像に接触する時間 .....	38
2) 質問紙の要因	38
3) 被検査者の要因	38
VII. 結論 .....	40
VIII. 展望 .....	41
謝辞 .....	42
参考文献 .....	43

## I.問題と目的

植田ら(2010)は、報道で用いられている映像は、事実の一部のみを大きく取り上げたり、現場の惨状や凶器を繰り返し映し出したりしていると指摘し、こういった映像は暴力と関連しているが、暴力そのものではない為、暴力映像の定義には含まれないが、暴力にまつわる事柄を何らかの意図を持って伝える映像であり、暴力を生々しく連想させうる情報であると考えた。そして、こうした報道で用いられている映像を「意図的に操作された映像」(植田ら, 2010)として研究を行った結果、意図的に操作された映像視聴前後で攻撃性に変化は見られなかったが、犯人の意図を視聴者が汲み取ってしまう目標感染(Aarts,H.et al.,2004)、元々攻撃性の高い者は意図的に操作された映像を視聴する傾向があることを示唆した。しかし、この調査結果は、事件が発生した3日後のものであるため、実際に報道を見て得られた結果とは言い切れないという要因統制にかかわる限界があった。

そこで、本研究は自己愛傾向の高さと攻撃性の高さに関連しているという研究(福島, 2007;湯川 2003b)から、個人特性としての自己愛傾向に注目し、自己愛傾向が高まる青年期を対象に、意図的に操作された映像が個人の是認思考および行動表出様式にどのような影響を与えるかを検討した。なお、本研究では「意図的に操作された映像」を「一方的な意見を採り上げた事件報道」とする。一方的な意見を採り上げた事件報道とは、植田ら(2010)の「意図的に操作された映像」と同じ定義であるが、意図されたものなのかが不明なため「一方的な意見を採り上げた事件報道」とした。

## II.方法

まず実験に使用する刺激映像を複数名(男性5名、女性5名)に評価してもらい、選定した。それを基に①犯罪に対する是認思考、②犯人と類似した行動表出様式を測定する質問紙を作成した。時点1では①と②の尺度の妥当性と信頼性を検討する為、また実験の前データを採取する為、①と②の尺度に加え、小塩(1998a)が作成した自己愛人格目録短縮版(以下 NPI-S)を用いて質問紙調査を2010年6月12日～2010年6月22日に都内A大学で実施した。結果、最尤法斜交プロマックス解によって①犯罪に対する是認思考(10項目)、②犯人と類似した行動表出様式(6項目)の2因子を抽出した。また、 $\alpha = .813$ と高い信頼性が得られた。時点2では刺激映像を視聴する実験後に再度①と②の質問紙に答えてもらった。本研究では、この時点1、2のマッチングデータ(男性5名、女性15名、年齢平均20.5、SD1.05)を用いた。

## III.結果と考察

NPI-Sの下位尺度である「自己主張性」低群では刺激映像を視聴すると「是認思考」得点が下がるが、「自己主張性」高群では視聴前後の「是認思考」得点にあまり変化は見られなかった( $t(19)=3.04, p<.01$ )。また、NPI-Sの下位尺度である「優越感・有能感」低群では刺激映像を視聴すると大きく「行動表出様式」得点が下がり、「優越感・有能感」高群では刺激映像を視聴すると「行動表出様式」得点がやや下がるといった結果( $F(1,18)=18.06, p<.05$ )になった。以上の結果から、刺激映像を視聴すると是認思考や行動表出様式が抑制されると考えられる。しかし、この抑制が見られたのは、「自己主張性」と「優越感・有能感」が低かった者だけであった。「自己主張性」は他者の評価を気にしないといった言葉で表せる(小塩, 1997b)因子、「優越感・有能感」はいわば強い自己肯定感(小塩, 2002)を表す因子とされている。すなわち、他者の評価を気にする者、自己肯定感が低い者は、一方的な意見を採り上げた事件報道のコメントによって社会的に望ましい方向へ促進された可能性が考

えられる。

自己愛の側面から考えても「不安定な時期」と言われる青年期に対しては、コメントも含めた一方的な意見を採り上げた事件報道が及ぼす影響は大きく、社会的に望ましくない方向へと促進される可能性もあることが示唆された。

## 参考文献

- Aarts,H.,Gollwitzer.,P.M.,&Hassin,R.R. 2004 Goal contagion: Perceiving is for pursuing.  
Journal of Personality and Social Psychology,87,1,23-37.
- 相良陽一郎・相良麻里 2006 自己愛と攻撃性の関係について 千葉商大紀要,43(4),37-59
- Bandura,A., Ross,D. and Ross,S.A. 1961 Transmission of Aggression Through Imitation of Aggressive Models. Journal of Abnormal and Social Psychology.Vol.63
- Blos,P. 1962 On adolescence:A psychoanalytic interpretation.New York:Free Press.
- 野沢栄司 訳 1971 青年期の精神医学 誠信書房
- Freud,S. 1914 Zur Einführung des Narzißmus. *Jahrbuch der Psychoanalyse*, 7.(懸田克躬 高橋義孝 他 訳者 1969 ナルチシズム入門改訂版フロイド選集第 5 巻・性欲論 日本教文社)
- 福島さおり 2007 攻撃性と自己愛傾向の関連性について 臨床教育学研究,33(1),38
- 原田新 2008 自己愛的自己評価プロセスに関する一考察 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要,2(1),13-22
- 伊藤安代 2006 暴力映像が攻撃行動に及ぼす影響 東京家政大学研究紀要,46,151-158.
- 上地雄一郎・宮下一博 2005 コフトの自己心理学に基づく自己愛的脆弱性尺度の作成 日本パーソナリティ心理学会,14(1),80-91
- 上地雄一郎 宮下一博 2004 もろい青少年の心—自己愛の障害—発達臨床心理学的考察 北大路書房
- 小林逸雄 2007 テレビ放送における捏造事件の教えるもの - 一連の報道から見えてくる社会的影響の一考察 - 仁愛大学研究紀要 6,99-118
- Kohut,H. 1971 THE ANALYSIS OF THE SELF The University of Chicago Press,Chicago and London(水野信義 笠原嘉 監訳 1994 自己の分析 みすず書房)
- Kohut,H. 1977 THE RESTORATION OF THE SELF The University of Chicago Press,Chicago and London(本城秀次 笠原嘉 監訳 1995 自己の修復 みすず書房)
- Kohut,H. 1984 HOW DOES ANALYSIS CURE? The University of Chicago Press,Chicago and London(本城秀次 笠原嘉 監訳 1995 自己の治癒 みすず書房)
- 今野 勉 2004 テレビの嘘を見破る 新潮社
- 松下姫歌・橋村裕治 2008 大学生の自己愛傾向と自我同一性との関連について 広島大学心理学研究,8,271-280
- 中野明德 2003 子どもの問題行動と自己愛—Kohut H.の視点から— 福島大学教育学部論集 75,23-36
- 西村秋生・松崎一葉・垣渕洋一・岡田幸之・佐藤親次 1996 年少者を対象とした暴力視聴時における付加情報の影響力の評価 人間工学,32,81-86.
- 岡田涼 2009 青年期における自己愛傾向と心理的健康:メタ分析による知見の統合 発達心理学,20(4),428-436
- 小此木啓吾 2002 精神分析事典 岩崎学術出版 pp170-172.

- 大淵憲一 1980 暴力映像が視聴者の行動に及ぼす効果について 実験社会心理学研究,20,pp85-95.
- 小塩真司 1997a 自己愛傾向の二側面に関する検討—3つの自己愛尺度を用いて— 教育心理学論集,27,19-32
- 小塩真司 1997b 自己愛傾向に関する基礎的研究—自尊感情,社会的望ましさととの関連— 名古屋大学教育学部紀要. 心理学,44,155-163
- 小塩真司 1998a 自己愛傾向に関する一研究—性役割観との研究— 名古屋大学教育学部紀要. 心理学,45,45-53
- 小塩真司 1998b 青年の自己愛傾向と自尊感情,友人関係のあり方との関連 日本教育心理学研究,46,280-290
- 小塩真司 2002 自己愛傾向によって青年を分類する試み—対人関係と適応,友人によるイメージ評定からみた特徴— 教育心理学研究,50,261-270
- 小塩真司 2004 自己愛傾向と大学生活不安の関連 人文学部研究論集,12,67-78
- Philips,D.P. 1986 Natural experiments on the effects of mass media violence on fatal aggression: strengths and weaknesses of a new approach. Advances in Experimental Social Psychology, vol.19.New York: Academic Press.pp.207-250.
- 祐宗省三 1981 心理学事典 平凡社,pp123-124
- 植田裕吾・井上直子・木村晴 2010 意図的に操作された映像が視聴者に及ぼす影響 日本社会心理学会第51回大会発表論文集,722-723
- 山本明 2004 マスメディア報道がリスク認知および被害者像に及ぼす影響に関する探索的検討 社会心理学研究,20(2),152-164
- 山崎俊輔 2008 青年期における自他への攻撃性と自己愛傾向の関連 九州大学心理学研究,9,143-151
- 湯川進太郎・吉田富二雄 1998 暴力映像が視聴者の感情・認知・生理反応に及ぼす影響 心理学研究,69,89-96
- 湯川進太郎・吉田富二雄 1999 暴力映像が攻撃行動に及ぼす影響: 攻撃行動は攻撃的な認知および情動によって媒介されるのか? 心理学研究,70,94-103
- 湯川進太郎 2003a メディアと人間の発達 第3章 テレビと暴力 学文社,41-57
- 湯川進太郎 2003b 青年期における自己愛と攻撃性—現実への不適応と虚構への没入をふまえて— 犯罪心理学研究,41(2),27-36